

史跡キウス周 一縄文墓地群

		B.C.9,000		B.C.3,000		B.C.1,000		A.D.300		A.D.800		
		B.C.13,000		B.C.5,000		B.C.2,000		B.C.300		A.D.600		
日本	旧石器時代	縄文時代						弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	平安時代	鎌倉時代
		草創期	早期	前期	中期	後期	晩期					
北海道	旧石器時代	縄文時代						続縄文文化		縄文文化		アイヌ文化圏
		草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	オホーツク文化	トホナイ文化			

キウスの森

道東道を千歳東ICで降り、国道337号を長沼方面に向かうと、すぐ前方にコナラやミズナラなどの大木が鬱蒼と茂る落葉広葉樹の森が現れます。ここに史跡キウス周堤墓群があります。ここでは実際の縄文時代の集団墓地が群集して現存しており、環状に盛り上がる土堤は大きく、堤の内側は深くほみとなっていて、特異な光景を国道脇の森の中に見ることができます。

保護の歩み

キウス周堤墓群の保護の歴史は古く、今から100年以上前に遡ります。

1900年頃に所在が確認されていたキウス周堤墓群では、1912年にはアイヌのチャシと記した標柱が建てられていて、1917年に北海道庁技手らによってはじめて測量と発掘の現地調査が行われます。その結果、北海道庁が1918年に刊行した『北海道史附録地図』に「先史時代原始時代の遺址」のひとつとして「キウスの遺跡」の「土塁を繞らしたる円穴5箇」（現在のキウス1号～5号周堤墓）の図が掲載され、また、1919年に東京の学会誌で、遺跡は「チャシ」とは異質の「キウスの土城」と紹介されました。

1919年の史蹟名勝天然紀念物保存法の制定・施行を受けて、北海道庁は1924年に『北海道史蹟名勝天然紀念物調査報告書』を刊行します。この中で「キウスのチャシ」と題して「此形式の「チャシ」は本道に於て他に類例を見ず珍しき遺跡なれば保存するを要す」と報告された遺跡は、1930年同法に基づき「キウスノ「チャシ」」の名称で史跡に仮指定されました。



戦後、1950年の文化財保護法制定に伴い、仮指定は解除となります。このころから遺跡はチャシや土城でなく縄文文化の墳墓「環状土籬」と考えられるようになっていました。1964～65年の千歳市教育委員会の1号・2号周堤墓の発掘調査はこれを裏付け、周堤墓群（1号～6号）は、1968年に「千歳キウス環状土籬群」の名称で北海道文化財（史跡）に指定されました。

約5haに及ぶ遺跡は、1978年、奈良国立文化財研究所（当時）の協力を得て千歳市教育委員会が行った地形実測で周堤墓2基の新発見など集合墓の実態が把握されて、翌年、改称「キウス周堤墓群」をもって文化財保護法に基づく史跡に指定されました。

この指定から30年が経過した2009年、千歳市は史跡キウス周堤墓群を管理すべき地方公共団体に指定されました。この後、2013～17年に千歳市教育委員会が実施した詳細分布調査と現況測量で新たな周堤墓が1基追加され（14号）、通路状遺構の存在が把握されて、2019年、史跡は追加指定されました。

現在、周堤墓9基と通路状遺構を含む約10.9haのエリアが土地所有者や施設管理者の協力を得て、史跡として保護されています。



キウス1号周堤墓 1964年部分発掘。土坑墓5基検出



キウス2号周堤墓 1965年部分発掘。土坑墓1基検出

堤墓群 を映す遺跡景観一

豊田 宏良 (とよた ひろよし)

千歳市教育委員会教育部主幹(国指定史跡担当)

1963年佐呂間町生まれ。89年早稲田大学大学院文学研究科修士課程考古学専攻修了。同年千歳市教育委員会社会教育課、94年同埋蔵文化財センター勤務。2013～18年史跡キウス周堤墓群地区分布調査担当。19年から現職。史跡キウス周堤墓群保存活用計画策定、同史跡整備事業担当。

史跡キウス周堤墓群の価値

周堤墓は、地面を円形に掘りくぼめ、その土を周囲に環状に積み上げて構築した周堤の内部に複数の土坑墓を設けた、縄文時代後期後葉（BCE1200頃）の北海道に固有の墓地遺構です。

史跡キウス周堤墓群は、縄文時代の墓制・葬制や社会構造を考える上で欠くことのできない遺跡です。その本質的価値は、大きく以下の3点にまとめられます。

- ◆ キウス周堤墓群は、周堤の外径が最大で83m（1号周堤墓）、くぼみ底面から周堤天端までの高さが最大で4.7m（2号周堤墓）にも及ぶ最大級の規模を有するものを含む周堤墓が群集し、中には互いに周堤が接するものがあり、全体として広域な墓地の集合体を形成していること。
- ◆ これまでの調査により、立石（石柱）を伴うものや石棒を副葬したもの、ベンガラ（赤色顔料）を散布したものなど、埋葬の多様なあり方を示す土坑墓が良好に遺存することが確認されていること。
- ◆ 周堤墓群は縄文期以降に火山灰や腐植土によって覆われますが、昭和初期に保護がなされ、構築時の外観を現地表でもそのまま確認することができま



石棒 キウス4号周堤墓外縁部土坑墓副葬品。長さ57cm。重さ710g

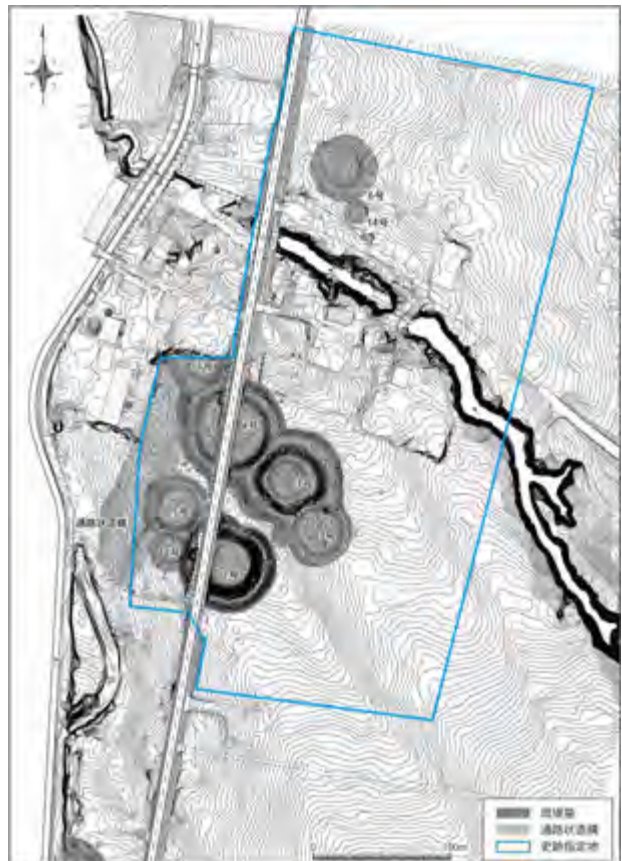
す。周堤と中央部のくぼみ、及び相互の配置が作り出す地勢・地貌は、現在に至る史跡（遺跡）の形成過程を示すとともに、縄文時代の墓地群の有り様を反映させた史跡（遺跡）景観をなしていること。

遺跡を伝える

キウス周堤墓群は、縄文文化最大級の実際の墓地遺構群が眼前に展開している国内でも稀有な遺跡です。

かつてチャシとされたこれらの周堤墓群ですが、「規模整然たる現形を存す」（1919年）と表現されてからおよそ100年もの間、文化財担当職員をはじめとして、地域住民、発掘従事者、研究者ら、たくさんの人たちが保護施策や調査・研究に取り組み、今日の史跡景観を保全してきました。

周堤を持つ大型の墓地群が何の目的で造られたのか、どのくらいの人数が埋葬されているか、など考古学上の多くの謎は今もなお残されていますが、これからも遺跡を損なうことなく、キウスの森で引き出される価値や魅力を広く、次の100年に伝えていくこととなります。皆さんも遺跡に来て、一緒に発信してみませんか。



史跡キウス周堤墓群全体図